

200歳万歳!

200歳まで生きる会
平成21年4月・第34号

地球こどもクラブについて

私は、「200歳まで生きる会」の発足に際し、七田会長のご要請により、会の顧問に就任しました。

その後、「NPO法人地球こどもクラブ」の会長になりましたので、現在は、一会員として側面的にお手伝いしています。

この度、七田会長から「地球こどもクラブ」の広報について、「200歳まで生きる会」の会員にも参考になることを交え、投稿してはどうかとの好意的なお話がありました。

そこで、まだ無名に等しい「地球こどもクラブ」について、その設立の目的や活動などを、本誌を通じてPR方々ご説明することになりました。

さて、「地球こどもクラブ」は、1991年環境庁設立20周年記念事業として発足しました。その主たる目的は、日本を中心としたアジア諸国の子どもたちに対し、地球の自然環境の保護の大切さを指導、教育することです。

そのために、「ぼくたちの地球を守ろう」を合言葉に、さまざまな環境活動を行っています。

滅びゆく自然を守ろうとする運動は、今や世界の潮流となっていることは、皆さんご存知のとおりです。

「地球こどもクラブ」が、その具体的な方法として、当初始めたのは、小学生、中学生を対象にして、地球環境保護に関する作文の応募（懸賞付き）でした。その後、ポスターコンクールも併設され、さらにアジアこども会議も新設されました。作文、ポスターの応募総数は、海外を含めて、実に

6万5千作品となりました。

このような多くの子どもたちが、若いころから地球環境保護の重要性を自覚するようになったことは、まずまずの成功であると思っています。

ところで、「地球こどもクラブ」の活動を推進する幹部、すなわちボランティアについて申し上げます。

名誉総裁は、高円宮憲仁親王妃久子殿下です。会長は不肖長岡で、副会長は朝日新聞社元社長の中江利忠氏です。その他、こどもクラブ設立者の朝日クリエイティブ社長の井田敏夫氏など、各界の著名人が多く、変り種としては、会の理事である漫才協会の会長の内海桂子さん、童謡歌手の由起さおりさんなどです。

皆さんが、こどもクラブの幹部に快く就任され、この仕事に生きがいを感じているようです。

また、こどもクラブの活動が年々評価され、作文、ポスターコンクールに入賞した子どもたちを励ますため、内閣総理大臣賞、環境大臣賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞が授与されることになりました。

このように、主要大臣の小がそろって授与されることは、異例のことといわれています。

また、「地球こどもクラブ」では、以上述べた活動の他に日本の象徴である「富士山」の世界文化遺産登録の実現をスローガンとして、子どもたちの地球緑化に関する意識を高めたり、自然を愛する豊かな心を育てる具体策として、富士山麓の河口湖畔に毎年さくらの苗木を植樹し、富士山の美化に役立てることにしています。桜の苗木の一

本目は、総裁である高円宮久子殿下に植樹していただきました。

最後になりましたが、地球に自然環境が悪化してゆくことには、そこに住む人間を始め、すべての生き物が自滅することです。これを避けるためには、大自然の創造の教えに従うこと、すなわち天命に従うことであると思います。

人間がむやみに山の木々を切り拓くことは、地球に共生共存する仲間を倒すことであり、天命に逆らうことです。

「地球こどもクラブ」を例にすれば、天命とは、地球に自然環境を保護することです。また、天命にしたがって行動すれば、医者や薬では治らない難病が奇跡的に快癒した話をいくつか聞いております。

「天命に従うこと」は、正に人間の三大幸福である。健康長寿、安心感実現のための有力な手段の一つであると思います。

プロフィール

長岡 喜法(ながおか よしのり)

1925年山梨県に生まれる。

現在、賃貸マンションチェーン(株)ロングヒルジャパン会長。財団法人長岡育英会理事長。NPO法人地球こどもクラブ会長。山梨県人会連合会副会長。



特集

健康法は自分の体質に合わせて考えること

第9号（平成19年2月）にも書いていますが、健康法は自分に合った健康法を探すことが大切です。人間には、陽性体質と陰性体質があつて、陽性の人には適した健康法が、陰性の体質の人にも合うとは限らないのです。それどころか、まったく逆の効果を生み出します。

陽性体質の人が説いた健康法が、陰性体質の人に合うとは限りません。ですから、本に書かれていることを、そのままのみにしてはいけません。著者が陽性タイプの場合は、自分の体験から陽性タイプに適した健康法を説いているのですが、陰性タイプの著者は自らの体験を参考に、陰性タイプに適した健康法を説きます。だから、本によって反対のことが書かれているのです。

陽性体質の人は血が濃いタイプで、体が温かです。陰性体質の人は血の薄いタイプで、冷え性です。

卵油は強心剤になるといわれていますが、ナトリウム、カリウムが多く、血圧を上げるので、血の濃い人、つまり陽性タイプの人には合いません。酢大豆は、逆にカリウムがなく、体を冷やし、血を薄めるので、陽性タイプには良く、貧血タイプの人には良くないのです。飲めば、もっと体がだるくなります。

朝鮮人参はどうでしょう。冷え性の人には良

いけれど、陽性タイプの人には合いません。アロエは体を冷やす方向に働くので、高血圧の人には良く、低血圧の人には合いません。

霊芝は血を薄める方向に働くので、血の濃い陽性タイプの人には合いません。青汁はどうでしょう。肉食の人には効果がありますが、陰性体質の人が飲み続けられれば、ますます血を薄めることになりまます。ですから、青汁は万人向きとは言えないのです。

コーヒ―は、体を冷やす働きがあるので、陰性体質の人が、がぶがぶ飲み続けるのは良くないことです。コーヒ―はカリウムの多い南国産のものは、体を冷やすので要注意です。冬に寒いからといって、コーヒ―を飲み続けると、陰性体質をますます強めるのでいけません。下手をすると、年中風邪をひく体質になるといいます。

果物はビタミンC、カリウムが多いことが知られていて、血液を浄化しますが、血を薄くして体を冷やす働きがあります。特に、南国産の物はビタミンC、カリウムを多く含み、体の血液を浄化する働きがありますが、陰性の人が食べ続けると、冬は大変体が冷えて、どうしようもなくなります。南国の人々は、水分たっぷりのこのような果物を摂って暑い気候に対処する方法を取っているのです。

塩分は、その人の適量があります。バランスを考えて摂ることが大切です。陰性で低血で血が薄いタイプの人には摂らないと大変です。この

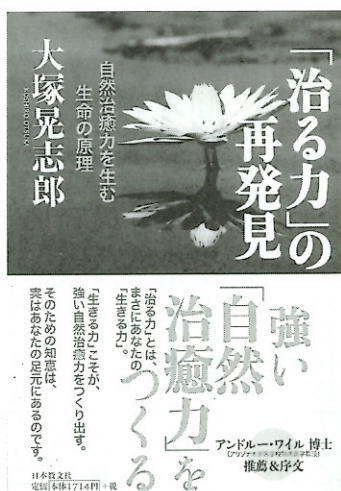
人たちにとっては、減塩は大変怖いことになります。反対に血の濃い多血性の人には、あまり塩分を摂ってはいけません。

菜食のベジタリアンは、塩を摂らないとダメです。卵はナトリウムが多く、ナトリウムの多いものは体を温めるので、陰性タイプの人には、心臓の力を強めてくれるのでいいのです。陽性タイプの人には卵を摂り続けると、血圧が上がってしまうので大変です。

おまけに体質は常に変化しているので、考えて摂らないと、固定化してはダメなのです。体質は刻々と変化しているので、陽性タイプがいつまでも陽性タイプであるとは限らないのです。

このように、血を濃くするものと薄くするものがあるので、テレビの広告をうのみにするとこはできません。

血の濃いタイプには、血を薄くするものが良く、陽性体質の人に向いています。



断食にしても、陽性タイプの人と、陰性タイプの人を同列に考えることはできません。断食療法の指導者にとっては、生水は大いに飲めと

指導したらよいのか、それとも、努めて制限しなさいと言ったらよいのか、それを見極めることが大切です。同じように塩の摂取量も、もつと増やしたらよいのか、それとも減らしたらよいのか、増やすといつてもどれくらい増やせばよいのか、生野菜や青汁などは、この患者に多く食べさせてもよいのか、それとも努めて制限せよと指導したらよいのか、よほど考えなくてはなりません。

古来、漢方では、陰には陽、陽には陰、を調和させ、そのバランスを取ることににより、健康回復を図ろうとする考え方がベースにあります。中国の「傷寒論」に、「陰陽自ら和するものは、必ず自ら癒ゆ」と陰陽中和論を教えています。

体質ばかりではなく、心質というものもあります。積極的に活動的な人と消極的で受動的な人という分け方があります。サプリメントにしても、体質や性分にあつたものを選ばなくてはなりません。食物にしてもサプリメントにしても、自分に合ったものを選ばなくてはならないのです。健康の本質は、こうしなくてはならないと決めてしまうのは良くなく、体質の変化も考えながら、自分の健康を自分で守るという考え方が大切なのです。健康は全体性で考えること、英語で健康のことはヘルスと言いますが、これは、ホロン（全体）という意味の言葉から来ているのです。

参考文献 「治る力の再発見」 大塚晃志郎著

日本教文社

「断食療法の科学 体質改造の実際」

甲田光雄著 春秋社

トピックス

人間の歴史

「金の水」の話をご存知でしょうか？ 金は、そもそも水に溶けるものではありません。

それを水に溶けるようにしたのが山内先生です。そして、先生は「山内理論」を打ち立てました。山内理論はプラナ理論です。

この山内先生の「金の水」、「プラナ理論」を本に書いて紹介しておられるのが、一番弟子といわれる高田富風先生です。高田先生には、「病院も薬も放り出せ」という本と、「金の水」キネシオロジー」という2冊の本があります。

この2冊の本で「金の水」のことを紹介しましょう。高田先生は、山内理論を世界でNO.1の理論だと言われます。先生は、病気の本身は90%が慢性病だ。慢性病は長い年月をかけて誤った食事、誤った日常生活、プラナ不足と、もう一つは薬という名の毒だと言われます。

慢性病は、病院では治りません。薬を使うからです。この薬で新たな病気を作っていく、つまり病気を治すのではなく、病気をどんどん作っているのだといわれます。

プラナというのは生命の素で、栄養の素です。プラナというのは地球を覆っていて、中国でいう気のこととまったく同じものです。人間は、プラナをうまく体に摂り込めば、有機物によら

ず、新陳代謝が非常にスムーズにいくのです。有機物を摂って、後に生じる副産物も生じません。

この地上には、果物をはじめとするブドウ糖を含んだ植物がたくさんあります。われわれの体は、進化の過程において摂取されたブドウ糖は、糖分として血流にのり、細胞に達し、細胞膜から細胞体へと、プラナを手渡します。そうして、プラナは肺から排泄されるという流れを持ちます。草食動物は、そのように草を主食として、糖分とプラナによって生を営みます。

糖尿病は、今、病院に登録された患者の数は600万人といわれています。このまま進むと、数年内に1000万人に到達するでしょう。なぜ糖尿病になるのかというと、山内理論では肉食をするからだといえます。

終戦直後には、糖尿病患者など、日本人には一人もいなかったといわれますが、たった40年、50年経った今と、どう違うのでしょうか。糖尿病だというと、白米の食べすぎが原因だと言われますが、それは違います。当時は、今のよう白米をたくさん食べる農家の人たちがいたのです。でも、誰も糖尿病にはかかっていなかったのです。ストレス説、運動不足説もありますが、それらは本当の原因ではなく、それは肉食にあると山内理論では明快に指摘しています。

肉食が、なぜ糖尿病の原因になるのでしょうか。簡単に言うと、糖は人間の体に必要なものです。

が、肉は不必要なものです。昔の人は、肉など食べませんでした。そして、そのころは糖尿病などなかったのです。

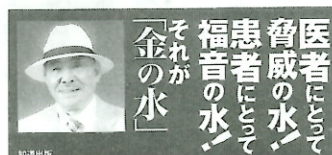
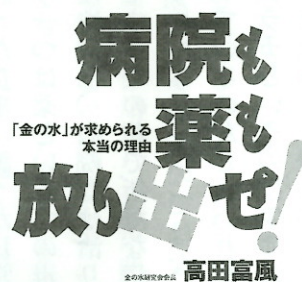
肉を食べると、腸の中で悪玉の細菌を増やし、これによって、肉は腸内で腐敗します。腐敗作用が多くなると、体にダメージを生じるのです。肝臓にも負担がかかり過ぎ、その機能は損なわれます。宿便がまた邪魔をして、糖の正常代謝が維持できなくなります。

肝臓の本来の働きは、ブドウ糖をグリコーゲンにすることですが、その能力を損ねてしまうのです。脂肪肝という病気も、動物の脂を食べ過ぎたことに起因します。結局は、肉によって多くの障害が起き、肝臓の糖の代謝を妨げることから、糖尿をはじめ、諸病の原因になる。これが山内学説です。

大切なことは、白米を100度以上の熱で炊いて出来たご飯を、ゆっくり100回もよく噛んで食べることです。そうすることによって、白米が効率よく上等のブドウ糖に変わります。お粥はいけません。噛むのを半分にして送り込むので、半分しかブドウ糖になりません。だから、少し固めのご飯を、ゆっくり一口につき、1分から2分かけて噛むと良いのです。すると、口の中でご飯は甘くなり、唾液があふれ出します。そうすると、ご飯の半分以上はブドウ糖に変わるのです。

よく噛まずに飲み込むとどうなるか。不思議と思われるかもしれませんが、まず太る。口内

の消化酵素、ジャスターゼがほとんど働かないからです。



長くなりますから、金とプラナの話に移りましょう。金は本来、空中にあるプラナを蓄えて、人間が摂ると病人にプラナを流す働きがあるので、病人がよくなるのです。

プラナが体に流れると、病気は消えていきます。この空気中のプラナを、最もよく吸収するのが金なのです。山内理論では、でんぶん、生野菜、果物が究極の食であって、たんぱく質はいらないとしています。野菜でいいのはイモ類です。ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、長イモ、それにかぼちゃを薄味で炊いたもの。これらを主食にすればいいと説きます。ご飯は軽く一杯、とるところになるまでよく噛むこと。

生野菜はキャベツ、レタス、水菜、タマネギ、かいわれ大根、きゅうり、にんじん、大根、セロリ、トマト、赤ピーマン、オクラ、とうもろこし、アスパラガス、ブロッコリーなどを軽くどんぶり一杯は食べることに。

生野菜は体を冷やすから良くないといわれま

すが、それなら野生の動物は煮た野菜を食べていますか？断然生野菜は良いと高田先生は言います。

プラナという観点から見ると、生野菜は100度あり、煮ると60になり、炒めると40になります。だから断然生野菜が良いのです。果物も体を冷やすから良くないといわれますが、体の冷えるのはまったく関係なし。いつも食べている量の3倍は食べることに。

プラナを味覚で表すと、「甘いもの」です。でんぶん、生野菜、果物は、よく噛んだ後に摂れば良い。

原始に近い形で進化していないもの、イカ、タコ、ウニ、甘エビ、えび、かに、牡蛎、サザエなども、生で食べるのが一番。また、火を軽く通す程度、魚は白身魚が良く、鯛、ひらめ、かれい、は良い。キムチは最高。漬物はすべて良く、にんにくも最高と高田先生は説きます。

健康情報 1

御申 療法

御申 療法はすごい療法です。最近、御申 療法の貴田先生にうかがった話では、医師の見放したスキル性の胃がん患者が、1か月ほどの施療で、すっかり良くなったそうです。

これは医学上あり得ないことで、近々、国立大

学で貴田先生による発表が行われるそうです。

広島県在住の医師、梶川先生は、『wendy 広島』という月刊誌で、この御申 療法のことを5回にわたって紹介しておられます。

その男性は、2008年9月からお粥はおろか、水分もほとんど喉を通らなくなりました。10月24日貴田先生の触診を受けたところ、上腹部がほとんど硬い腫瘍に占拠され、激しい悪痛を訴えていたそうです。直ちに御申 療法を開始。

御申 療法を4回まで受けた後、貴田先生の進めに従って医師の診断を受け、胃の透視を受けました。すると、胃がんが、胃の上辺の部分から、食道直下にある、胃の出口の幽門までに達し、胃の下辺部分(大弯)は幽門から大弯まで、がん細胞に犯されているという診断でした。御申 療法でバリウムが通るようになっていたので、内視鏡で見ると、胃の上部に巨大ながん性潰瘍を形成しながら、幽門に向かって浸潤しているのが認められました。

医師から診ると、浸潤性でたちの悪いがんの部類に入り、主治医は「手術は不可能ですから、化学療法でもやりましょうか。でも、胃がんは化学療法はあまり効果がないから、あまり期待はしないでください。」と言われました。

奈落の底に落ち込む思いで、再び御申 療法に戻りました。10月24日から12月の終わりまで、計18回の御申 療法を受け、その間、一切の化学療法も健康食品も使用しなかったのに、もかわらず、食欲は日増しに出て元気になり、今は、何でも食べられるようになっていきます。本人

は打って変わってとても元気になり、仕事に飛び回っておられるそうです。

11月13日のお腹の触診の写真で、腫瘍の塊は、非常に小さくなっているのが認められました。18回の御申 療法でここまで回復させてもらったので、このまま御申 療法に任せたいと医師に言くと、医師も「ずいぶん好転している。賢い選択肢です。」と言われました。

約1か月の治療後は、普通に食べものが通過するようになりました。

医師は、この人の腫瘍マーカーを次のように記載しています。

2008年10月24日 (125.8 U)

11月17日 (80.6 U)

12月5日 (39.9 U)

12月19日 (23.0 U)

正常値は37 U以下です。現在はCA19-9で動いていると梶川医師は『wendy 広島』(平成21年1月号)で発表しておられます。そして、最後にこう結んでおられます。

「極々最近のことです。御申 療法のみを行って、奇跡的にどんどん縮小している胃がんの症例が出てきたのです。画期的なことです。この症例をこのシリーズの最終回として報告したいと思います。」

(中略)

貴田先生は、今までいろいろな症例に対して、試行錯誤を繰り返しながら治療してこられたましたが、ついに、「メディカル・エビデンス」ともなった治療例を手に入れたのです。まさに、「無限の可能性が御申 療法には開けている」と言えるでしょう。

るでしょう。

日本生物物理学会の元会長で、医学博士の松本元先生は、「御申 療法が貴田先生によって開発されたことは、日本人として、極めて誇りに思うとともに、科学的解明によってこの手法をさらに高め、21世紀の新しい医療として、世界の人々の福祉に役立てるようになることが、わが国の全人類に対する責務であろう」と述べておられます。

産経新聞も平成13年の6月20日と21日の上下2回にわたって、この御申 療法のことを報じています。そして、日本代替・相補・伝統医療連合会議理事である医学博士の福岡氏も「代替医療としても注目」「近代の西洋医学を医療制度の中心に据えている国は、医療費が高騰して、国の財政を圧迫している。自然治癒能力を高める代替医療を求める動きは世界的なうねり」とし、「西洋医学ではほとんど無力のウイルス性疾患、アレルギーなどにも御申 治療は効果をあげている。」と評価。

と報じています。

最後に、主婦の御申 療法の体験例を紹介します。

貴田先生

いつも大変お世話になっております。

長男の現在の状況や経緯について報告させていただきます。

子どもがなかなか授からず、不妊治療でようやく妊娠したのが、12月末のとても寒い時期でしたので、せっかく授かった赤ちゃんを何とか流産させずに出産したいという気持ちから、まず体を冷やしてはいけなさと考え、毎日昼はホットカーペットの上で過ごし、夜は電気毛布と、今、考えると恐ろしい妊娠生活を送っておりましただ。あとから知ったことですが、ホットカーペットに座ると、そこから胎児までの距離は3〜4cmだそうです。最も大切な妊娠初期を電磁波漬けで過ごしてしまったのです。

そのときに電磁波についての知識があれば・・・と悔やんでなりません。

無事出産し、安心しておりましたが、言葉が遅く、人の声よりも電気製品などの機械音によく反応する傾向がありました。

2歳になってすぐに、急な高熱で起こる「熱性痙攣」の発作が出るようになりました。

「熱性痙攣」は、小さな子どもが急な体温の上昇に脳がついていけず起こす発作で、比較的脳の未熟な子どもに起こるといわれています。

命に別状はないと理解しているつもりでも、白眼をむいて顔面蒼白になり、気を失っているわが子を見るのは、とてもショックなことでした。

大きくなるにつれ、熱性痙攣の発作もなくなり、ホッとしていたのですが、6歳になったころに、突然発熱もない状態で痙攣を起こすようになってしまいました。

この年齢で起こす痙攣は、「てんかん」の疑いがあるとのこと、2度ほど脳派の検査をしました

が、いずれも「てんかん」の脳派は見つからず、検査結果としては異常はないが、「てんかん」でしょうとの診断で、納得のいかないまま、薬だけをいただいで帰ってきました。

それでも、学校で発作が起こることを恐れ、薬を飲ませました。

薬の副作用から、服用開始から3日目にはまったく笑わない、感情を表に出さない、まるで別の子どものようになっていました。今まで一緒に過ごしてきた長男が遠くへ行ってしまったような気持ちでした。

病院から処方された薬は、ただ単に脳をまったく興奮しない状態にして発作を封じ込めるだけのもので、病気を治すためのものではありませんでした。よく調べてみると、「そううつ病のそう状態の方に処方される薬で、長期にわたって服用すると、うつ状態になる可能性もある」というものでした。

そんな恐ろしい薬を「まずは3年間飲み続けてください。」と言うのです。

七田先生の著書で、以前から御申を知っていた主人が「この子を治すには、やはり御申しかない!」と、薬を一切止めて、貴峰道にお世話になることを決心しました。

貴田先生に頭を擦っていただと、長男はとても痛がりました。

施術中に私たちも手をかざすと、手のひらにビリビリと強く感じ、長男の体内にかなりの電磁波が溜まっていたのがよくわかりました。

一度目の治療から4か月が経ちますが、長男は一度も発作を起こしておりません。表情も明るく、よく笑い、元気に充実した日々を送っております。

貴峰道からの帰り道は、長男はいつも上機嫌で足取りも軽そうです。頭がすっきりして、体が軽くなるのがうれしいようで、今では貴田先生にお会いするのが楽しみに通わせていただいております。

長男を恐ろしい薬から、そして長い間苦悩してきた私たちを救っていただき、本当にありがとうございます。

今後ともよろしくお願いいたします。

また同じ悩みをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますが、わが子の体験談をお読みいただくと、少しでも参考にしていただけたら幸いです。

最後に御申 療法については、この会報の七号にも報じていることを申し添えます。

御申 療法お問い合わせ先:

日本貴峰道協会

住所:〒151-0065

東京都渋谷区大山町2-17-302

T E L : 03-3460-0901

F A X : 03-3460-0902

受付:午前9時~午後5時

(完全予約制)

休日:日曜日、月曜日

良書推薦コーナー

『金の水』キネシオロジー 高田富風著

知道出版／1,470円(税込)

高田富風先生には『金の水』キネシオロジー』という本があります。この本にキネシオロジーのことが書いてあります。

キネシオロジーは身体運動学と訳されますが、日本語訳とは、まったく印象が違った内容です。『パワーかフォースか』(デヴィッド・R・ホーキンズ著)という本があります。この本は世界的にベストセラーになった本で、身体運動学について書いた本です。

この本に、キネシオロジーのやり方が詳しく書いてあるのです。キネシオロジーを使えば、いろいろなもののエネルギー値がわかります。人、物などを数値で明快に出せる大変なやり方なのです。それは機械を使ってやるのではなく、身体を使って計るので、それで身体運動学というのです。

今までのやり方では、オーリングやフーチなどがあり、オーリングなら指の開閉の強弱、フーチなら大きな弧を描けるかどうかで判断していたものです。これでも大変役に立つのですが、キネシオロジーは人や物、すべてのもののプラナ値を、1から1,000までの数値で表すことができるのです。キネシオロジーの正しいやり方を身につければ、本物と偽者の数値が、その場ですぐわかるのです。

キネシオロジーは、人間のすべての表現に当

てはまるとされ、文学、建築、芸術、科学、世界的な出来事や、人間関係における複雑さを見事に測定することができるのです。

高田富風先生は、このやり方をデラヴィ・エハンさんのビデオを入手し、要領を学んだのです。このやり方をマスターすれば、顧客に本物のサプリメントをお送りすることができます。

高田先生は、このやり方を身に着けて、早速サプリメントを測定してみました。そうして次のような数値を得たのです。

ブルーベリー 191、水溶性アガリスク 197、ローヤルゼリー 373、ニンニク卵黄 230、ウコン 230、姫マツタケ 351、田七人參 389、大麦若葉の青汁 319、ルイボステイ 211、メシマこぶ 262、パイロサチン 282、深海魚生肝油 298、キトサン 432、牡蛎肉エキス 321、ハナピラタケ 348、ブラジル産アガリスク 199、チャイガエリア(ロシア産) 347、など。

高田先生は金の水も計ってみました。すると金の水Aは761、金の水化粧品は590、金の水Bは480。このように、金の持つプラナですから、ダントツの1番ということがわかったのです。

キネシオロジーで人物のエネルギー値を計ると、ダライラマは710と出ました。

聖徳太子 746、福沢諭吉 619、新渡戸稲造 535、夏目漱石 564、樋口一葉 524、野口英世 553、板垣退助 456、やはり、すごい人はすごいプラナ値を持っている

ることがわかりました。靖国神社の神札 92
2、出雲大社の勾玉 747。

人はどうすれば自分のキネシオロジーをアップすることができるのでしょうか。キネシオロジーを高めるには、「親切」をすることによって、自己変容ができるのです。ちなみにアメリカには、「応用キネシオロジー国際大学」があります。

ここで、プラナについて説明しましょう。プラナというのは、実は、人の名前なのです。その人が神に次のような言葉を聞いたところから、天から降ってきたエネルギーをプラナと呼ぶようになったのです。神はプラナ氏に「外に出なさい、空から力が降ってくる」と言いました。この考え方、プラナ思想は中国に入り、氣という考え方になりました。プラナとは、ごく簡単に言えば、生命現象のためのエネルギーということです。

有名なホーキンズ博士が「パワーかフォースか」(著者 デヴィッド・R・フォークンズ・三五館)について次のように言っています。

本書に報告されている研究は、人類の知識の進歩に関する最先端のものであり、まったく新しい世界を切り開いてくれるものです。時空を問わず、どんなことがあっても、虚偽から真実を区別できる、「心理の科学」が、人類の歴史上初めて可能となりました。

何が嘘で、何が本当かが即座に正確にわかれば、どれほど楽になれるでしょうか。

フォースは私たちをどこへも導いてくれませんが、パワーはよりよい理解や健康、幸せに導いてくれ、真実もシンプル。

生命あるものは、みな生命を守るのに対してポジティブに反応し、そうでないものに対してはネガティブに反応する。

著者は、20年間数千人を対象に、100万回にわたっての確かなデータから、「意識のマップ」を完成したのです。

なんともすごい本が出ているものですね。

昔の人たちも飽食によって健康を害するようになりまし。人の病気は、なぜ始まったのでしょうか。人間は、次々に生産される食べものをむさぼるように食べました。そのために、健康を害する人がたくさん出てきたのです。そこで彼らはどうしたでしょう。病院に行ったのでしょうか。その昔は病院などはありませんでした。神にお伺いを立てたのです。どうしたら病気は治るのでしょうか。種族の代表者である酋長が、神にそう尋ねました。神はこう答えました。「お前たちは食べすぎだ。食べないで頑張れば治る。たくさん水を飲んで、下痢をすれば治る」

食べないこと、すなわち断食は今日でも治療の効果的手段であることは変わりません。断食は、ほとんどの宗教で採用されています。アラの神を信じるマホメット、すなわち回教では、現在でも週に1回は必ず断食をすることになっています。

断食はヨーロッパの文化の中に深く根を下ろしていることがわかります。現代人は、これとはまったく逆のことをしているのです。グルメなど、プラナの少ない食事をやたら詰め込んで

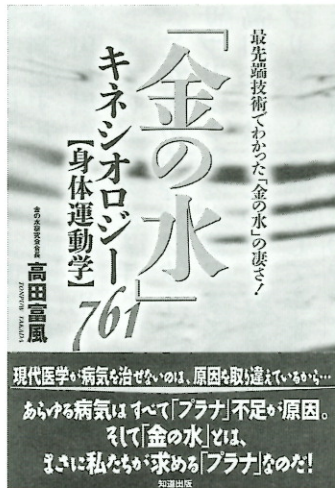
いるのですから、腸の中が腐り、宿便が溜まるのも当然です。宿便こそ病気の元凶といわれ、この宿便はプラナを食いつぶします。

プラナは新陳代謝を助け、悪いものを排泄するために空中から限りなく降るのですが、現代人はそれを取り入れることができなくなっています。

夜のプラナが特に生命を作るのです。植物の成長を支配しているのはプラナです。

芽吹いた若い葉は、茎ともどもプラナを受け取ってどんどん成長します。朝顔は、夜のプラナをもらってつぼみを膨らませ、朝になって花開きます。たけのこは夜伸びて、昼間その葉を開こうとします。

人間はどうでしょう。そのプラナをシャットアウトしてしまう大きなビルなどに住み、プラナ不足の生活をしています。現代人は、昔の神の教えなど知らず、病気になれば病院に行つて、対象療法を受けます。これでは人間は滅びに向かうばかりです。



編集後記

早いですね。年が明けたと思ったら、もう二月です。

最近、自伝的小説「七海弘志の青春 魂の遍歴」を書き上げました。来月には、出版されると思います。

17歳の少年の魂の遍歴を書いた小説です。自伝的小説ですので、七田眞の青春がほとんどそのまま語られています。心の若返りのために、皆様にも、ぜひ読んでいただきたいと願っています。

【発行人】

七田 眞

【発行所】

「200歳まで生きる会」

〒695-0011

島根県江津市江津町527-15

TEL 0855-5215301

FAX 0855-5215797

今回は、3月号を一回休刊にしていたいで、大変申し訳なく思っています。実は、社内の体制が変わり、発行日を変更することになりました。従来の200歳会報は、10日発送予定にしていたが、発行日を1日に変えました。それでは3月号とするには遅すぎるので、1日に4月号を発送することにしたのです。

休みになった3月号は、どこかで臨時発行してでもお送りしたいと思っていますので、どうぞご了承ください。

(編集部)